

令和元年度第1回 石巻地域産業人材育成・定着推進会議 参加者発言要旨

開催日時：令和元年6月10日（月）午後2時～午後4時
開催場所：宮城県石巻合同庁舎201・202会議室

1 会議の趣旨

「石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議」の部会として、石巻地域の学生・生徒の「産業人材としての育成」、「地元企業による雇用」、「就職後の定着」に向けた具体的な取組を検討するため開催。本日は、本年7月2日（火）開催予定の「プラットフォーム会議」（以下、「親会議」）に向け、各機関の今年度の取組について情報共有・意見交換を行うもの。

2 出席者

【産業】

石巻商工会議所	地域・人づくり支援課長	佐藤 洋一
女川町商工会	主査	笠原 悠平
石巻信用金庫	地方創生・地域貢献課長	遠藤 和敏

【教育】

石巻専修大学	事務部次長・事務課長	高橋 郁雄
	事務部事務課長補佐	猪瀬 寿人
宮城県石巻工業高等学校	教諭	荒井 章展
宮城県石巻商業高等学校	教諭	志茂 寿朗
宮城県石巻商業高等学校	連携コーディネーター	西塚 久良
宮城県石巻北高等学校	教諭	楯石 誠晃
宮城県石巻北高等学校	就職支援員	佐々木 英一
宮城県石巻北高等学校飯野川校	教諭	大橋 孝幸
宮城県石巻北高等学校飯野川校	連携コーディネーター	本木 由紀子
宮城県水産高等学校	教諭	油谷 弘毅
宮城県石巻西高等学校	教諭	齋藤 訓子
宮城県東松島高等学校	教諭	磯部 洋
石巻市立桜坂高等学校	教諭	小山 信
宮城県立支援学校女川高等学園	教諭	鶴田 幸喜
宮城県立石巻高等技術専門校	副校長	平間 弘和

【行政機関】

石巻公共職業安定所	統括職業指導官	後藤 慶志
石巻市産業部	商工課 主任主事	植田 和之
東松島市産業部	商工観光課 主任	手代木 昌幸
女川町産業振興課	商工労働係 主幹兼係長	小松 純
宮城県教育庁高校教育課	キャリア教育班 主幹	吉田 浩二
宮城県東部教育事務所	次長（社会教育主事）	松川 忠孝

【オブザーバー】

一般社団法人みやぎ工業会	ものづくり企業統括コーディネーター	八島 和彦
	ものづくり企業コーディネーター	飯盛 良拓

【事務局】

東部地方振興事務所	地方振興部長	石田 政信
	地方振興部 次長（総括担当）	荒井 雅秀
	商工・振興第一班 次長兼企画員（班長）	遠藤 佳貴
	技術主査（副班長）	豊川 高弘

3 参加者発言要旨

報告事項(1) 石巻地域の雇用情勢について(石巻公共職業安定所)

- ・ ハローワーク石巻管内の雇用情勢(平成31年4月)について。有効求人倍率は1.60倍と、前年より0.1ポイント低くなっている。最近の傾向としては、定年後も65歳までは継続雇用されるため、65歳以上の新規求職者が増加している。世間一般的に仕事はあると言われているものの、廃業して就業先がなくなったなどの理由で、直近3ヶ月で求職者が増加しており、有効求職者数が多いことから、求人倍率が上がらない要因となっている。
- ・ 約1千人の新規求職者のうち、約2百人が在職者で、結構多い印象を持っている。彼らは転職予備群、又は定年間近で定年後の職を探している場合が多い。
- ・ 有効求人倍率は季節で変動する。12月頃は勤務する方が増加するので、求職者の減少に伴い有効求人倍率が上がる一方で、4月頃はパート・アルバイトの終了に伴い、求職者が増加し、有効求人倍率が下がる傾向にある。
- ・ 石巻地域における求人・求職のバランスは、求人が多いのは、保安警備、土木の現場作業員、介護・看護、輸送機械運転(トラック、タクシー)、製造業(水産加工業含む)となっており、求職者の希望職種とアンバランスが生じている。ハローワークの窓口においては、需給バランスを説明して、少しでもマッチングするように努めている。

報告事項(2) 平成31年3月卒業生の就職状況について

① 石巻専修大学

- ・ 平成31年3月卒業生274名のうち、就職希望者の就職決定率は98.8%。業種別としては、大学全体で「その他(農業、飲食店・宿泊業、医療・福祉、複合サービス事業、電気・ガス水道・熱供給業、サービス業等)」が35%を占め、次いで卸売・小売業(27%)となっている。
- ・ 地域別就職状況としては、約6割が北海道・東北地区に就職しているが、本社所在地で区分していることに留意願いたい。
- ・ 大学に寄せられる求人数は1300件程度で、前年度から190件程度減少している。
- ・ 大学生の就職活動において、企業の採用活動が長期化している。3年生の夏季に体験したインターンシップ先を、就職先とする学生も結構多いが、企業からのインターンシップ受け入れ申し出の時期が早まってきており、申し出件数も増加している。
- ・ 大学3年生の3月から採用活動解禁とされているが、今後、このルールが無くなるとされているため、インターンシップを含め、学生は早めに準備をしているが、これまでと異なる仕組みであるため、不安を抱えながら進めている印象がある。

② 管内高等学校(出席各高等学校)

イ 宮城県石巻工業高等学校

- ・ 本校は毎年6割が就職、4割が進学しており、工業高校としては進学が多い印象。石巻管内への就職は3分の1。それ以外は、仙台、特に関東方面が中心となっている。石巻地域を希望する生徒は多いが、学科により東京を中心とした管外就職が多い。また、建築科は資格取得を見据えて進学する生徒が半分以上である。
- ・ 就職希望者のうち、内定者は9割以上である。今年の傾向として、自営・縁故が例年より増加した。本校で技術を身に付けたにも関わらず、別の進路を希望する生徒も多く、本人の希望もあるが、特に親の意向が強かった印象である。
- ・ 求人は県内のみならず、県外からも多くいただいているが、就職志望先を絞りきれない生徒や保護者もいる。昨年度は、親の意向が特に強かった印象があり、今年度も同様の傾向になるのではと考えている。
- ・ 今年の3年生は7割が就職、3割が進学を希望している。1年生においては、機械科が1クラス減少したため、将来の影響が懸念される。

ロ 宮城県石巻商業高等学校

- ・ 本校においても、親の意向が影響してか、地元就職が多い。積極的に関東圏に行きたい生徒は、女子の3名のみであった。
- ・ 夏休みが忙しくなるが、面接前に職場見学するよう生徒に指導している。職場見学をすることでミスマッチを減らせればと思う。
- ・ 現在は、4月に就職した生徒の定着指導として企業訪問している。離職の報告はないが、巡回途中であるため、何名か離職した可能性もある。
- ・ 進路未定者はおらず、4月の時点で進路決定者は100%となっている。

ハ 宮城県石巻北高等学校

- ・ 管内就職は6～7割程度である。進路決定者は3月までに100%となっている。現在は企業を訪問して定着状況を調べているところ。しかし、4月1日早々から1名離職したことが、就職先の企業から連絡がきた。
- ・ 4月早々から就職ガイダンスを含め、就職指導として生徒に働くことを伝えてきたが、毎年数名ではあるものの、早々に離職者が出るのが現状である。
- ・ 様々な会議で離職率が高いという話が出るが、職場定着させることは難しい。生徒達には3社くらい見学させて、自分が良いと思うところに就職するよう指導するが、どうしても保護者の意見が強くなることがある。
- ・ 生徒達には、早い時期から就職に対する考え方をキチンと持たせるべく、改善していきたい。

ニ 宮城県石巻北高等学校飯野川校

- ・ 本校の就職希望者は20名弱であるが、全員管内を希望している。主な就職先は、販売・福祉・建築が多い。4月の段階で就職希望者は全員就職できている。

ホ 宮城県水産高等学校

- ・ 本校の就職・進学割合は、例年概ね8対2である。今年度も同様の傾向である。就業地における石巻・石巻以外の割合は、概ね5対5となっている。県外への就職は多めであるが、船舶関係又は調理士としての就職が多い。
- ・ 平成31年4月に就職した者のうち、既に5名が離職したとの連絡を受けており、今後の増加を懸念している。中には3月中に内定辞退した例もあり、就職前に会社訪問も実施しているため、これほど早期に離職した理由は不明である。それ以外の生徒は、一生懸命頑張って就業している。

ヘ 宮城県石巻西高等学校

- ・ 本校は進学希望が8割、就職希望が2割である。ここ近年、就職希望の生徒の割合が増加しており、公務員志望者が多いことから、公務員講座を月に1回開催している。しかし、公務員になれなかった場合は、民間企業に就職することを安易に考えている生徒もいるため、就職活動の現状を指導してきた。この指導の結果、昨年度は民間就職志望に切り替えた生徒もいたため、民間就職者が増加した。
- ・ 今年度も就職希望者を対象に、就活の流れや対策について逐一指導することとしている。
- ・ 本校は、今まで進学中心であったが、少しずつ変わってきている。今年度からインターシップを1年生に導入し、社会経験をさせるなど、幅広い教育を実施する予定である。

ト 宮城県東松島高等学校

- ・ 昨年度の就職者は28名である。職種の内訳は、製造業9名。次いで介護事業、建設業と続いている。本校は福祉・介護の授業があるため、一定数が介護職を希望している。ほとんどの生徒が、石巻管内の事業所に就職している。一方で、就職未内定のまま卒業した者が8名程おり、その要因は職種にこだわりすぎたり、就職活動の動きが鈍かったことなどによる。

チ 石巻市立桜坂高等学校

- ・ 統計上、就業先の本社が県外に所在する場合は、県外就職に分類されてしまうが、実質の就業場所は、全員県内である。また、臨時的仕事希望者が5名いるが、将来的に東京のアパレル関連の職種を見据えて、現状はアルバイトをしている者もいる。
- ・ 本校は女子校であるため、事務系や販売系を志望する生徒が多いが、求人はさほど多くない。また、地域の方々の要望として、介護・水産加工等への就業を勧められるが、これらの職種に就職する生徒はほとんどいないのが現状である。

リ 宮城県立支援学校女川高等学園

- ・ 本校は3月に初めての卒業生を輩出し、卒業生24名のうち、23名が就職した。本校は全寮制をとっているため、石巻圏外に自宅がある場合は、自宅から通勤できるところに就業している。
- ・ 本校は現場実習として、3週間を年2回実施しており、このインターンシップを受け入れていただいている企業にそのまま就職している。職種は、サービス・介護・クリーニング・運送・食品加工・清掃等で、本人の特性及び興味希望に応じて就職している。

③ 石巻高等技術専門校

- ・ 本校は、就職するために技能・技術・知識を身に付ける学校であり、入校者は就職を見据えて入校する。
- ・ 高卒者を対象とする自動車整備科・金属加工科・木工科の3科であるため、これについて説明する。就職者としては、自動車整備科では修了者18名のうち17名が、金属加工科では修了者4名全員が、木工科では7名のうち4名が、それぞれ就職した。木工科については高卒者が対象ではあるものの、高齢の方が多いことから、自営業を予定する者もいるため、就職率に反映されにくい。就職者は、全員が学んだ技術・技能に関連した職種に就職している。
- ・ なお、金属加工科は特にものづくりというところに着眼している。昨年度マシニングセンターも導入しており、ものづくりである機械加工・溶接・板金という3本柱を強めていく予定である。

質疑応答

一般社団法人みやぎ工業会

- ・ 石巻専修大学における、求人数が減少した理由をお聞かせ願いたい。

石巻専修大学

- ・ 本学の場合は、郵送又は電子メールで求人票を受け付けている。求人票の受付数の減少要因は、就職情報サイト等のウェブを活用した求人活動が増加しているためと考えられる。

一般社団法人みやぎ工業会

- ・ 企業がインターンシップを受け入れ始めた3～4年前では、企業側としてはインターンシップの受け入れが採用に繋がらない、受入体制の整備が負担であるとの声が上がっていたため、インターンシップの制度に対して良い印象を持っていなかった。しかし、本日、インターンシップが就職に結びついている事例を伺ったため、良い制度ではないかとの印象を持った。

石巻専修大学

- ・ 本学でインターンシップが就職に繋がった例では、3年生の夏季にインターンシップする際、複数企業（多い場合は8社）を経験し、自分に合う会社に就職した学生もいた。
- ・ また、今年度の4年生においては、調査前ではあるが、内々定を得ている学生は3割前後ではないかと推測している。ただし、内定後も就活を継続している様子で、より慎重に進路先を選択している傾向がある。

報告事項（3） 令和元年度における各機関の取組について

① 石巻公共職業安定所

- ・ 5月に、管内企業113社を対象に新規高卒者対象の求人説明会を実施したほか、管内企業約260社を対象に新規高卒者の採用意向等についてアンケートを実施したところ、ほとんどの企業で採用意向があるとの回答であった。
- ・ 6月から、高卒求人の受理を開始しており、現在の受理件数は50件超えである。受付状況としては例年並である。
- ・ 7月には、合同企業説明会の開催を予定しており、参加企業数は昨年と同様に67社とする予定である。説明会後に実施する企業・高校教諭との就職懇談会の手法については、見直しを検討中である。
- ・ 9月には、各高校から推薦が開始され、選考・内定が解禁される。10月には、昨年と同様に合同就職面接会を実施予定である。
- ・ これらのほか、各高校の希望に基づき、例年3月に就職ガイダンスを実施している。大学向けには、毎週木曜日に出張相談会を実施している。
- ・ 求職者対象としては、宮城県東部地方振興事務所又は石巻市と合同で、出張相談会を4箇所で開催している。また、合同企業説明会についても、石巻市又は東松島市と合同で、サポートセンターを中心に開催予定である。

② 石巻専修大学

- ・ 学生一人一人の希望に添った就職・進路実現に向けて「進路ガイダンスの質の向上」「個別相談体制の強化」「教職員の連携強化」の3つの強化策を実施し、就職率100%を目指す。
- ・ 進路ガイダンスの質の向上では、1学年から2学年までに、社会人基礎力から、ビジネスマナーも含めて職業観等を醸成するガイダンスを実施する。3学年では経営者セミナーの開催、インターンシップ参加の促進、合宿による面接指導、本学主催の合同企業説明会（参加企業：約150社）等を開催する。
- ・ 個別相談体制の強化では、3学年を対象に履歴書を添削し助言を行うとともに、本学に常駐しているキャリアカウンセラーが進路決定までサポートする体制としている。さらに、ハローワーク石巻の協力を得て、週1回相談コーナーを設置している。
- ・ 教職員の連携強化では、学生の就職状況について教職員間で年5回情報共有を行い、教職員一体となってサポートを実施する。

③ 管内高等学校（出席各高等学校）

イ 宮城県石巻工業高等学校

- ・ 本校は、工業高校であるため、技術指導として実際に現場で働いている方を講師として招聘したり、工場に出向き現場での学ぶ機会を設けている。専門教科も多数あるため、資格取得等の実践的な学びにしている。
- ・ 2年生では、学科毎に地元企業の協力をいただき、インターンシップを実施している。就職を目前に控えた3年生では、進路別講話や面接指導等を実施している。

ロ 宮城県石巻商業高等学校

- ・ 1年生では自分探しや自己発見を、2年生では能力スキルアップとして、外部講師を招いた職業講話や、生徒全員がインターンシップを3日間経験する。今後の進路指導では、インターンシップに注力するため、日数を3日間に増やして実施することとしている。3年生では、企業見学をしっかりと行い、将来の就職を見据えて指導している。
- ・ 3年掛けて、自分の進路を見据え、考えながら高校生活を送れるよう指導している。

ハ 宮城県石巻北高等学校

- ・ 本校は総合学科であり、1年次のカリキュラムは共通であるが、2年次から各系列に分かれる。1年次では自己分析を行ったうえで、各系列の研究を行う。系列研究は今年度からの取組で、各系列を選択する際の判断材料として、具体的カリキュラムや先輩方の進路先等の理解を促す内容となっている。
- ・ また、社会人講話として、実際に働いている方の話を聴ける機会を数多く設けているほか、放課後活動として、各系列毎に資格取得の勉強等を実施している。
- ・ 学年別では、1年生では社会勉強の一環として、農産物やパン等を販売し、地元の方との交流する機会を設けている。2年生では事前指導を実施したうえで、インターンシップを2日間実施している。3年生では宮城労働局やハローワークの協力を得て、就業意識を高める講話を実施したほか、面接練習等の進路指導、消費者教育といった将来に向けた指導もしている。

ニ 宮城県石巻北高等学校飯野川校

- ・ 各学年で体系的な指導ができるよう、可視化を行っているほか、ステップアップインターンシップを実施している。本校は定時制であるため4年が基本であるが、3修制の生徒に対して、進路的な意味でも、校外学習を取り入れている。

ホ 宮城県水産高等学校

- ・ 本校は、1年生は海洋総合科として一括りで入学し、2年生から各類型に分かれて学習する。1年生の夏から秋にかけて、職業理解を目的にキャリアセミナー等を実施する。インターンシップを類型毎に実施するが、2年生では働く意義を学ぶ段階であるため、直接的に就職先に結びつかないのが現状である。3年生では実質的な進路指導として、個別に対応している。例えば、仕事に分かりにくい分野であったりする場合、事業者に依頼して個別に3日間程度インターンシップを実施して、そのまま就職試験に臨む事例もある。

ヘ 宮城県石巻西高等学校

- ・ 本校は普通科高校であり、どちらかといえば進学希望者が多数である。近年進路の如何を問わず、生涯を通じて、通用する生きる力を育ませることを目的とし、学校全体として、社会人として必要とされることを3年間かけて指導していきたいと考えている。
- ・ 1年生ではインターンシップの導入、2年生では地域理解講座として東松島市の職員から講話いただき、3年生ではSDGsの取組について講話いただいた。学校だけではなく、地域の方の力を借り、生徒の能力を伸ばして行きたい。

ト 宮城県東松島高等学校

- ・ 本校は3部制の単位制高校である。全日制と異なり、生徒の時間割が各々異なり、放課後という概念がない。このような状況下で、個別指導を一番重視している。中学校時代の不登校が原因で、就職活動に一步を踏み出せなかったり、継続して就職活動をすることが困難な生徒もいるが、進路指導部が中心になって、関係者と連携しながら個別に根気よく指導していく。

チ 石巻市立桜坂高等学校

- ・ 本校は目標として「高校生からすてきな女性へ」をキャッチフレーズに掲げている。各学年で大別すると3つのプロジェクトに分類され、コミュニケーションのみではなく、産業や地域を知り、市役所の仕事も経験することで、石巻地域のことを学んで卒業できればと考えている。また、本校は女子校であるため、女子校ならではの活動も念頭において進路指導を進めている。

リ 宮城県立支援学校女川高等学園

- ・ 本校においては、3週間のインターンシップを1年から3年まで、年間2回経験することが特徴である。校内の実習では週3日間、自分の適性・コースに応じた内容としている。また、

本校は全寮制であり、卒業後の自立した生活を目指している。

④ 石巻高等技術専門校

- ・ 本校は、職業に就くために技能・技術を身に付ける学校であり、職業訓練と呼ばれている。企業が本来OJTを行うといったときの役割を、高等技術専門校が担っている。
- ・ 技能振興事業としては「技能ふれあい祭り」を、2月29日に実施予定。技術技能の大切さ・面白さ・必要性を知っていただくと同時に、我々が行っている中身を理解していただくことが目的である。以前は県内各校で開催していたが、今では石巻校のみ開催している。県庁でも制作物等を販売する機会があるので、機会があれば御覧いただきたい。
- ・ 「協力・支援・参加」としては、在校生対象として、各職種別競技大会に出場し、自己の技術力アップやモチベーションアップを図っている。これ以外には、各高校と連携した体験学習や、昨年度から実施しているが小学生の体験学習等を通じて、高等技術専門校を理解いただくとともに、これらの体験をした人には高校卒業後の進路選択の幅を広げている。

⑤ 東部教育事務所

- ・ 当事務所では、「学校教育」として、中学生対象に職場体験（社会人の話を聴く、地域行事への参加・手伝いするなど）を推進しているほか、農業・漁業体験を通して、主に小学生が地域の取組を知る取組を推進している。これらは、地域企業やNPOと連携し、各小・中学校で実施している。
- ・ 「社会教育」としては、主体的にまちづくりに取り組む意識を育むために、地域における家庭教育や子育て支援ができる人材の育成として、子育てサポーター養成講座を行っている。また、管内市町では、子育てで悩んでいる母親の相談を受ける、専門のチームがある。
- ・ 東部地方振興事務所作成の産業学習マップ・ハンドブックについては校長会で配付し、活用を依頼している。他市町村からも問い合わせがあり、活用の場が広がっている。
- ・ 地域の社会教育・生涯学習の活性化、地域の教育力向上を図るため、公民館とも連携し、児童に地域の良さを認識してもらい取組を実施している。
- ・ 地域・学校との協働ということで、これからは、学校は地域に協力をいただきながら、学校は地域に還元しながら、自分の地域を知り、ふるさとの良さを感じ、なるべく地元に残って地元のために頑張っていこうという子ども達を育てられればと考えている。

⑥ 石巻商工会議所

- ・ 昨年度、若年層の地元定着を目指すべく、雇用推進委員会を立ち上げた。
- ・ 各高校においては、既にインターンシップ事業を通じて、地元雇用に結びつける取組に感謝している。会員を対象に、インターンシップ受け入れの可否を調査したところ、受け入れ可能とした企業が60数社であった。一方で、管内高校に当事業の活用について照会したところ、4高校・1大学の合計5校が活用可能と回答いただいたため、今後調整する。
- ・ 各高校のインターンシップは、早い高校では7月に、遅くて12月に実施するようであるが、今後、企業と高校とのマッチングを進めていきたい。
- ・ 会員企業においては、ハローワークに求人を出すものの、中々若手の人材が採用できないという声が聞こえる。一方で、生徒は地元志望者が多いと聴いているため、当事業を通じて、地元企業を知っていただきたいと考えており、地元雇用に繋がってもらえればと考えている。会員企業にとっては、自身の企業PRも兼ねて、当事業を活用していただきたい。
- ・ また、今年度後半には企業ガイドブックを電子媒体で作成し、広く情報発信する予定である。商工会議所としても、地元雇用推進の仕掛けに取り組んで行く。

⑦ 女川町商工会

- ・ 女川商売塾事業を実施する。本事業は、将来の女川を担う人材育成を目的に、女川小学校児童を対象に商業体験を行い、生活実学を学ぶもの。6月から10月までにかけて、勉強会10回と

出店2回を実施し、商品の仕入れ・販売・売上金の管理等を行う。本事業は昨年から実施しており、昨年参加した児童の感想では、将来このような仕事をしてみたい、商売をしてみたいとのコメントがあり、将来の職業選択の際の参考になればと思っている。

- ・ そのほか、関係団体と連携して地域の人作り・企業づくりとして事業を展開しており、例えば「創業プログラム」がある。年間6回のプログラムで、創業までの一通りの流れを支援するものであり、実際創業された方からの講演もある。過去には、本プログラムを活用して創業した方もいる。

⑧ 石巻信用金庫

- ・ 桜坂高校を対象に、社会人としての身だしなみ・マナー研修も含めて職場体験を実施しているほか、市内5高校に対して職場見学会を実施した。また、石巻専修大学の学生を対象に、インターンシップを受け入れ、当金庫の役割や、働くことについて、学生との相違点等を職場体験していただいた。
- ・ 小学生向けとしては、平成20年からマネースクールをCSRの一環で実施している。
- ・ 社会人向けとしては、平成26年から平成30年まで5カ年で、いしのまきイノベーション企業家塾を実施し、年13回の講座に延べ120名が受講した。こちらは5カ年が経過したため、昨年度で終了となった。
- ・ 石巻しんきん経営塾は、知り合う・考え合う・語り合う・質問し合うの4点を基本として、地域経済の再生・地域の活性化に貢献することを目的に発足した。塾生44名・卒塾生17名となっている。
- ・ 当金庫としては、企業を支援していく中で、地元定着を図っていきたい。

⑨ 石巻市

- ・ 本市では、災害公営住宅に1年以上暮らす入居者のうち、生産年齢人口（15～64歳）の24%が定職に就いていないことから、石巻公共職業安定所と連携した出張相談会を、平成30年度から実施している。今年度では、本市の3総合支所のほか、新たに県石巻合同庁舎でも実施しており、合計4箇所、6月から翌年3月まで毎月実施する予定である。
- ・ 上述のほかに、合同企業説明会を石巻市かわまち交流センターにおいて、6月から翌年3月まで毎月実施する予定としている。
- ・ これら2取組の対象者は求職者であれば誰でも可としている。

⑩ 東松島市

- ・ 本市では、東松島市中小企業・小規模企業振興基本計画を策定した。本計画において、高校生・大学生等を対象として、市内企業の情報発信、就職相談会等の開催、地元企業ツアーの実施及び仙台・首都圏の大学生のインターンシップ受入促進のほか、社会人等を対象として、UIJターン就職による人材確保支援を計画している。各施策については、関係機関と連携して実施していきたいので、御協力の程、よろしく願いたい。

⑪ 女川町

- ・ 女川商工会及びNPO法人等と連携し、人づくり・企業づくりのプロジェクトを展開している。「高等学校放課後事業者説明会」は、企業の高校新卒者の雇用を支援するために実施し、今後、各高校に相談する予定である。「ジョブチェーン」は、高校生等に地元企業やそこで働く人の想いを知り、町内企業への就職も含めて進路の幅を広げ、将来をイメージしてもらうものであり、今年度も可能性があれば開催したい。その他、女川町商工会と連携して、女川商売塾を実施する。
- ・ 社会人等対象の地元定着に向けた取組は、おしごと説明会（ハローワーク、宮城県と連携して実施）、創業プログラム（既に10事業者が創業）を予定している。

⑫ 東部地方振興事務所

令和元年度「石巻地域産業人材育成プラットフォーム」の取組の4本の柱立てについて、取組状況と今後の予定を報告。

「1 人材育成・雇用・定着に関する情報共有と取組の充実」

- ・ 会議を通じ、各機関の取組を共有し、取組充実に努めるもの。本日が今年度第1回目の部会にあたる。
- ・ 今後の予定：7月2日に今年度第1回目の親会議にあたるプラットフォーム会議を開催する。

「2 地域一体となった職業体験等、産業人材育成の取組の推進」

(1) 高等学校等の育成ニーズ支援

- ・ 地元企業・団体等におけるインターンシップや職場見学の受入、学校への講師派遣の可否等を掲載したガイドブックを取りまとめ、高等学校等のニーズに沿った講師派遣等の取組を支援する。同ガイドには160事業所を掲載しているが、今年度は170事業所まで拡充する予定。

(2) 石巻地域版インターンシップ活動の充実

- ・ 「石巻地域版インターンシップに関するガイドライン」に基づくインターンシップ活動を促進しており、各高等学校においてはインターンシップ実施の際に参考にされたい。

「3 企業と生徒・学生が接する場の提供等、地元就職の促進」

(1) 人材確保・育成・定着に向けた企業支援セミナーの開催

- ・ 地元事業所を対象に、人材の採用・育成・定着の有効な手法を学ぶセミナーを開催予定。

(2) 企業見学会の開催

- ・ 石巻専修大学の学生を対象に、地元事業所への理解を深め、石巻地域への就職を促進するために企業見学会を開催する。

(3) 宮城労働局・石巻公共職業安定所・宮城県主催の合同企業説明会等の開催

- ・ 地域の生徒・学生が、地元の企業を知る機会を設け、地元企業就職に向けた理解を醸成する。

「4 就職後の地元定着支援」

(1) 高校生対象「声出し・話し方セミナー」等の開催

- ・ 基本的な聴く姿勢や、初歩的なあいさつを含めたコミュニケーション能力の向上により、就職後の職場定着を促進するもの。
- ・ その他として、ものづくり企業コーディネーターと連携し、地元企業及び高校等を訪問し、情報共有・連携を図りながら人材の更なる地元雇用と定着を促進するとともに、ものづくり企業コーディネーターによる企業見学会開催に協力する予定である。

意見交換

一般社団法人みやぎ工業会

- ・ 本日出席されている9校の先生方の御協力をいただき、今年3月の卒業生の就職先を調査した。石巻管内約150社に就職している、9校の卒業生に占める就職者の割合は40%強である。
- ・ 就職者数は500名弱、うち、石巻管内への就職者数は300名弱である。概ね6割が地元就職しており、高い割合と感じている。県教育委員会では地学地就を掲げている。これは各校の進路指導の成果である。
- ・ 昨年は、石巻管内のものづくり企業を36社訪問した。うち、7割を越す企業が人手不足を訴えている。企業訪問時には、求人票や学校に配付するパンフレットを作成する際は、高校生が分かりやすい表現を、また、会社が知らせたい情報より高校生が知りたい情報を掲載するよう助言している。
- ・ 企業からは学校に対して「先生方に会社を知っていただきたい」などの要望があり、先生方の工場見学会を実施し、訪問企業は5社で延べ18名の先生方が参加された。うち、2社で採用に繋がった。
- ・ また、就職先を決定する際に、保護者が強力な権限を持っていると伺っている。そのため、

今年度は新たに保護者の方を対象にした企業見学会の開催を予定している。

- この一年活動してきて、我々ができるのは早期離職を何とか支援できないかということ。早期離職については、早期離職を防ぐ取組と、早期離職をしてしまった後のフォローと2種類に分けて考えなければならない。
- 早期離職を防ぐためには、高校時代のキャリア教育等の問題がでてくる。優秀な人が早期離職した場合は、結局は人材派遣業等で月25万円位の月給で、非正規かつ勤務地が分からないという状況になっている。
- みやぎ工業会としては、県内で就職先を探している人を対象に、職業紹介のサービスをしている。県内に350社程の会員がいるが、該当する求職者がいた場合、会員にオファーする仕組み。
- また、このことでIISHINOMAKI2.0の齋藤氏が非常に尽力している。我々は齋藤氏を仙台に招き、話を聴いている。先日のカンファレンスに出たとき、石巻の高校生はすごいと感じた。早期離職について、皆様も色々考えてもらいたい。
- 大卒就職者のうち、53%が就職後も民間就職サイトに登録している。これは絶えず情報を取り、今の就職先より条件が良い企業があれば、さっさと転職するつもりでいるということ。各企業は苦勞して採用しているのに、さっさと辞められ、採用計画に苦慮している。
- 今年の採用については、半導体と半導体に絡む電子部品が、非常に落ち込んでいる。昨年と同じ採用数は求めてこない可能性がある。加えて自動車関連部品で少々陰りがある。理由は様々であるが、従来の計画から少し落ち込むと思う。米中の様々な争いがあり、非常に大きなダメージに繋がる可能性がある。このあたりを注視されたい。

以上